東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2006 年 10 月 23 日

イードル・フィトル

ムスリムの皆様。　私たちはイードを迎えることができました。アッラーにどれほど感謝しても足りないほどです。

イードは、人々がお互いにより親しくなり、不愉快でいる人たちは和解し、配偶者や親友たち、親戚たちと交わり、訪問しあう、特別な日です。このような素晴らしい日々を私たちに恵んでくださったアッラーに、限りのない感謝をささげます。なぜなら、イードにおけるこの幸福感、この喜びを、感情や求めるものがそれぞれ違う数十億の人々に与えることは、人間には不可能なことであるからです。イードは、アッラーがどれほどの力をおもちであるかを示すものの一つでもあるのです。

兄弟姉妹の皆様。この素晴らしい朝に、「アッサラームアライクム」の挨拶を大いに行ないましょう。相手を知らなくても、まず自分が挨拶しましょう。なぜならこの挨拶は、信者のお互いへの愛情、関心を極めるものであるからです。私たちの教えは、信者達の間の愛情と敬意、一体化、そして統一を命じています。皮膚の色、民族、言葉、地域、思想の違いは、知り合い、互いに発展しあう機会を作り出すものだと見なされます。信者達が互いに協調性を持って振舞うことを求めます。同時に、社会、宗教、民族の価値を傷つけ、それらを分裂させ、仲たがいさせるような行為は厳しく禁じられています。アッラーはこのことを、クルアーンで以下のように示されておられます。「あなたがたはアッラーの絆に皆でしっかりと縋り、分裂してはならない。」(イムラーン家章第１０３節)　「あなたがたはアッラーと使徒に従いなさい。そして論争して意気をくじかれ、力を失なってはならない。」(戦利品章第４６節)　「明証がかれらに来た後分裂し、また論争する者のようであってはならない。これらの者は、厳しい懲罰を受けるであろう。」（イムラーン家章第１０５節）「．信者たちは兄弟である。だからあなたがたは兄弟の間の融和を図り、アッラーを畏れなさい。必ずあなたがたは慈悲にあずかるのである。」(部屋章第１０節)

兄弟の姉妹の皆様。イードを、それぞれに大切な機会ととらえ、でき得る限り、近しい人々や友人たちを訪ねましょう。窮乏している人々があれば助けましょう。子供たちを喜ばせましょう。さらには、イードの機会に、ムスリムではない人々にも贈物をあげましょう。そして何よりも大切なことは、アッラーへ、純粋な心でドゥアーし、祈りましょう。

ドゥアーする時は、世界中の、困難な状況にあって助けを必要としている兄弟たちの為にも祈りましょう。彼らが一時でも早く、やすらぎを取り戻せるようドゥアーしましょう。

また、ラマダン月に私たちが獲得したよい習慣を継続させるよう努めましょう。よい振舞いは、ラマダン月以外においても、よいものであるからです。醜い行いは、ラマダン月でなくても、醜いものであるからです。

親愛なるムスリムの皆様。皆様のイードを、心から祝福いたします。アッラーが、私たちに、真のイードを天国で与えてくださいますよう、乞い、願います。